

実践教育研究発表会 2022

2022. 8. 19～8. 20

大会テーマ 「 つながる ・ ものづくり ・ ひとつくり 」

2022年度の実践教育研究発表会（埼玉大会）が8月19日から20日までの日程で、埼玉県行田市のものづくり大学で開催されました。大会は「つながる ・ ものづくり ・ ひとつくり」を大会テーマに掲げ、対面とオンラインとのハイブリッド開催という初めて試みに向けて、大会運営委員会および実行委員会によりいろいろな企画が準備されました。2日間の会期中、1日目220名（内オンライン50名）、2日目160名（内オンライン70名）余りの参加者により発表や討議、情報交換、交流が行われました。

3系共同の企画である特別講演では、「想像力を育む実践教育（知財教育の試案）～知財＝特許から一歩前へ～」というテーマで知財コミュニケーション研究所の新井信昭氏の講演が行われました。

講演では、知的財産と特許との関係や想像力を育む物の考え方や手法、また新井氏がものづくり大学で行っている授業の内容についても紹介され、物事の考え方や視野が広がる講演会となりました。



発表会会場（ものづくり大学）



特別講演の様子



一般講演の様子

各専門部の企画もそれぞれ行われました。機械系企画では、「オンライン授業の充実に向けて」というテーマでのシンポジウムが行われました。シンポジウムでは、最初に高橋茂信氏、酒井則男氏、中村瑞穂氏、原圭吾氏の基調講演があり、その後質疑応答を含めた活発な討論が行われました。

電気・電子・情報系では、競技会（ものづくりコンペ テーマ「SDG'sの目標に沿った作品募集」）の結果発表が行われました。

建設系では、第5回建築設計競技会（テーマ「サステナブル住宅」）の受賞者のプレゼンテーション（対面8件、オンライン1件）が行われました。

一般講演では機械系35件（オンライン10件）、電気・電子・情報系15件（オンライン6件）、建設系15（オンライン2件）、能力開発系10件（オンライン0件）、ポスターセッションは機械系1件の発表がありました。

企業展示では、全国から26社（22ブース）の出展があり、教育訓練機器や教材、関連製品などの展示が行われました。ブース展示の中にはVRを用いたソフトや新しい機能を持つ3Dプリンター、また災害体感システムなどがあり、非常に参考になりました。

全体交流会はものづくり大学の学生ホールで開かれ、各系競技会の表彰式、企業展示を行った企業の挨拶や紹介が行われ、正会員と賛助会員、発表会関係者の交流が行われました。



ポスターセッションの様子



企業展示会場の様子



表彰式、交流会の様子